

二〇二五年度
【修士課程】早稲田大学大学院文学研究科
専門科目 中国語中国文学コース入学試験問題
※解答は別紙（縦書）

「問一」～「三」の回答順は自由でよいが、必ず問の番号を記してから答えること」

問一 次の十五項目の中から十項目を選び、ごく簡潔に説明せよ。

（時代の分かるものは必ず時代を記すこと）

ア	毛伝鄭箋	イ	駱駝祥子	ウ	新月派	エ	江湖詩派	オ	統合的動機付け
カ	王勃	キ	王実甫	ク	張賢亮	ケ	桃花源記	コ	『唐宋八大家文読本』
サ	郭沫若	シ	動態助詞	ス	講史	セ	曲牌聯套体	ソ	『漢語口語語法』

問二 次の「ア」「イ」のうち、いずれか一つの問題を選んで解答せよ。

「ア」次の文章を読んで、全文を日本語に訳せ。

仁宗在東宮、魯肅簡公宗道爲諭德、其居在宋門外、俗謂之浴室巷、有酒肆在其側、號仁和、酒有名於京師、公往往易服微行、飲於其中。一日、眞宗急召公、將有所問。使者及門而公不在、移時乃自仁和肆中飲歸。中使遽先入白、乃與公約曰、「上若怪公來遲、當託何事以對。幸先見教、冀不異同。」公曰、「但以實告。」中使曰、「然則當得罪。」公曰、「飲酒人之常情、欺君臣子之大罪也。」中使嗟歎而去。眞宗果問、使者具如公對。眞宗問曰、「何故私入酒家。」公謝曰、「臣家貧無器皿、酒肆百物具備、賓至如歸、適有鄉里親客自遠來、遂與之飲。然臣既易服、市人亦無識臣者。」眞宗笑曰、「卿爲宮臣、恐爲御史所彈。」然自此奇公、以爲忠實可大用。晚年每爲章獻明肅太后言羣臣可大用者數人、公其一也。其後章獻皆用之。

（『歸田錄』卷一）

【注】

仁宗……宋朝第四代皇帝。 魯肅簡公宗道……魯宗道。 人名。 諭德……官名。 宋門……北宋開封城門之一。
浴室巷……地名。 仁和……酒樓名。 眞宗……宋朝第三代皇帝。 章獻明肅太后……指眞宗劉皇后。

「イ」次の文章を読んで、傍線部①②③を日本語に訳せ。

且說花碧蓮在二層上，將懷中的果子取出一把，望猴子跟前撒去，坐在上面，也不驚覺它。①那猴子一見了果子，用手掌拾起，口內食嚼；嚼盡之時，花碧蓮又撒一把，猴子又在那裏拾吃。花碧蓮慢慢挨近。離得二三尺遠近，猴子驚躲南邊去了。花碧蓮被牆遮蔽，不知猴子的去向。巴龍站在南面，吆喝道：「猴子在南面了。」花碧蓮轉過南邊，仍將果子撒了一把，猴子又在那裏拾吃；花碧蓮纔近身邊，那猴子又驚跑別處，又看不見了。看官，那猴子若不是被余謙捉驚了的，此刻花碧蓮這般拿法兒是易捉。那花振芳同余謙站在下面，大叫道：「猴子往北邊去了。」花碧蓮轉向北邊，那猴子跳上頂層，花碧蓮亦上頂層。幸喜上邊無有牆壁遮眼，花碧蓮心生一計，道：「須將這畜生挨在角上，叫它無處踱跳，方能擒住懷中。」又取一把果子撒在東北角尖上。②那猴子見有果子在角上，遂往東北角上拾果子吃。花碧蓮悄悄挨近猴邊，纔待伸手去捉，猴子見有花碧蓮擋住右邊，無路逃走，那畜生發急，用力一跳，欲從花碧蓮頭上跳過。不料這四望亭多年未曾修理，木料朽爛，灰磚裂開，花碧蓮同猴子俱墜下來。眾人齊道：「不好了，掉下人來了。」

花碧蓮從上掉下，花振芳同余謙並巴氏弟兄俱皆驚惶無措，花碧蓮自料性命難保。祇見四五簇人之外，③有一少年人叫一聲：「還不救人，等待何時。」將身一縱，跳過來將花碧蓮雙手接住，抱在懷中，坐在廳埃。眾人齊道：「難得這個英雄，不然要跌為肉泥。」花振芳同眾跑過來一看，接住花碧蓮者不是別人，正是駱宏勛大爺。

（『綠牡丹全傳』第二十回「四望亭上女捉猴」）

【注】

花碧蓮……女武芸者。 巴龍……花碧蓮之母方的叔父。 余謙……駱宏勛の下僕。 花振芳……花碧蓮の父。 山東の馬賊。 駱宏勛……本作品の主人公。 武術の達人。

問三 次の文章を読んで、以下の問いに答えよ。

- (1) 「で囲まれたA・B・Cの部分を日本語に訳せ。
(2) 波線部①と②の現代中国語音をピンインで記せ。(声調符号も含む。横書きすること)

※この部分は、著作権の関係により掲載できません。

—これより先の余白には絶対に記入しないこと—

(裏へ続く)

——ここから記入すること——

(裏へ続く)

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——